

日立が鉄道運行会社のファーストグループ社から英国・イングランド北部の路線に向けた標準型都市間車両「AT-300」の納入および保守に関する正式契約を締結



納入する「AT-300」のイメージ図

株式会社日立製作所(執行役社長兼 COO:東原 敏昭/以下、日立)の英国における鉄道システム事業会社である日立レールヨーロッパ社(取締役会長兼CEO:Alistair Dormer)は、このたび、鉄道運行会社の FirstGroup plc(以下、ファーストグループ社)と、ファーストグループ社の子会社である First TransPennine Express が運営する英国・イングランド北部の路線に向けた、標準型都市間車両「AT-300」95両(19編成)の納入および保守に関する正式契約を締結しました。

納入する19編成のうち、最初の数編成は日立製作所の笠戸事業所(山口県下松市)で製造し、残りの編成については、日立レールヨーロッパ社が英国ダーラム州ニュートン・エイクリフに開設した鉄道車両工場で製造する計画です。新型車両の納入は2018年の春、路線への導入は2019年12月となる予定です。

今回納入する「AT-300」は、モダンな内装とゆとりのあるシートを備えており、高速 Wifi サービスの提供により、乗車中に映画やテレビ番組をモバイル端末で楽しめるなど、利用者が快適に過ごせる環境を整えています。新型車両は、現在走行中の Class 185 車両に比べて席数が161席多く、高い信頼性と効率性を実現し、利用者向けの情報提供システムを備えています。

車両の保守サービスは、Doncastar Carr(ドンカスター・カー)と Craigentenny(クレインゲンティニー)に保有する車両保守基地で、また、夜間のメンテナンスや車両保管は Edge Hill (エッジ・ヒル)、Heaton(ヒートン)、およびYork(ヨーク)の車両保守基地にて行います。

納入する車両「AT-300」は、2012年に受注した英国運輸省(Department of Transport)の都市間高速鉄道計画(以下、IEP: Intercity Express Programme)向けに設計された Class 800 シリーズをベースにしており、走行地域の急勾配に対応すべく、エンジンの出力を IEP 向けの車両よりも向上させるとともに、大型の燃料タンクとブレーキ抵抗器を備えています。

今回の受注獲得により、標準型都市間車両「AT-300」の納入車両数は、既に受注している Class395 の 174 両や Class800 シリーズの 1039 両と合わせ、合計 1,308 両となります。

日立は、今後も、世界各国の鉄道計画について積極的な受注活動を継続し、鉄道システムのグローバル展開を加速していきます。

■標準型都市間車両「AT-300」車両について

日立が開発した標準型都市間車両「AT-300」は、高速での都市間交通向けに設計されており、シリーズには、2005年に受注し、英国都市部のロンドン・セントパンクラスからドーバーを結ぶ高速線とケント州沿線の在来線を走行する、ジャベリンの愛称で知られる Class395 や、2012年に受注し、2015年3月に英国に第一編成が到着した IEP 向けの Class800 シリーズがあります。最高速度は Class395 が 225km/h、Class800 シリーズが 201km/h です。

以上

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。
